

災害時における 障がい児(者)への歯科支援活動 研修会 まとめ

日時 : 平成 29 年 4 月 2 日(日) 午後 3 時～午後 5 時
場所 : 熊本県歯科医師会館 3 階 研修室
講師 : 河瀬聡一郎(石巻市立雄勝歯科診療所所長)

河瀬先生から、東日本大震災の後の障がい児(者)の歯科的課題と対応について、お話しいただきました。実際の事例から、事前の避難や支援の体制づくりの大切さや、多職種での情報共有しながらの対応の必要性などをお教えいただきました。

また、石巻市において整えてきている、関係機関と連携した地域における障がい児(者)の歯科医療体制についても、ご紹介いただきました。

その後 30 分ほど、松本理事の進行にて、質疑・意見交換が行われ、有意義な会となりました。
(記録・集計: 中久木康一)

参加者名簿: 32 名(歯科医師 18、歯科衛生士 12、施設 1、学生 1)

アンケート回答: 22 名

障がいとのかかわり:

支援者(医療職)13、支援者(非医療職)1、家族親族 2、その他 1、

その他(歯科大生)1、直接の関わりはない 3、記載なし 1

医療福祉系資格: 歯科医師 9、歯科衛生士 5、なし 2、記載なし 6、

年齢: 20 代 2、30 代 1、40 代 5、50 代 10、60 代 2、70 代 1、記載なし 1

性別: 男性 9、女性 2、記載なし 2

1. 内容は、わかりやすかったですか? n=22

| | | |
|----------|----|-----|
| わかりやすかった | 21 | 95% |
| ふつう | 1 | 5% |
| わかりにくかった | 0 | 0% |

✓ 映像とともに実践された事等を踏まえた具体的な内容でとても参考になりました。

2. 今回参加して、初めて知った内容はありましたか? n=19

| | | |
|--------------|----|-----|
| 初めて知った内容があった | 17 | 89% |
| だいたひ全て知っていた | 2 | 11% |

- ✓ 障害者の避難状況、避難所を利用できなかった方がどう過ごしていたか
- ✓ 石巻市の実態
- ✓ 難病患者に対して災害時に対応するためのガイドラインがあり、近隣の施設の人たちも把握していることは今回初めて知りました。
- ✓ 身元不明遺体はかなりあること
- ✓ 障害者に対する支援

- ✓ 今回の熊本地震での素早い多くの支援(障がい児者への)は東北地震の経験があった為という事がわかりました
- ✓ 石巻市の障がい者歯科診療の現状
- ✓ 東北大震災のニュース映像は見ましたが、より生々しい感じでしたし、改めて忘れてはいけない事だと思いました。
- ✓ 東北での取り組み(特に障がい児歯科支援内容)
- ✓ 災害時の対応ハンドブックがある、なしでの支援の違いなど
- ✓ 東日本大震災時の障がい者の生活状況(困ったことなど)、災害時対応ハンドブック、支援学校が情報拠点であること
- ✓ 潮が引いた後に大きな波がくる、海に近い人が多くの犠牲をうけたのかと思っていたが、近い人より奥の方が人が被害が多かったということ
- ✓ 障がい児とのかかわり
- ✓ 被災地での状況や、雄勝で取り組まれていることなど
- ✓ 仮設の長期化で家庭内暴力や自殺が増えている、障がい児者の災害時対応ハンドブック

3. 今回の内容は、今後の生活や業務に活かそうですか？

n=21

| | | |
|--------|----|-----|
| 活かそう | 19 | 90% |
| 活かさなそう | 0 | 0% |
| わからない | 2 | 10% |

- ✓ 障害歯科診療の流れ。家族、施設とのかかわり。支援学校などとの連絡、情報の共有。
- ✓ 他施設との連携と情報の共有を進めることで、各患者さんにより適した診療を行う
- ✓ 自分のおかれている立場から何が発信できるか考えるヒントになりました
- ✓ 行政へ必要なことは市民レベルから声をあげると良いことがわかりました。市民への意識づけも医療者として患者教育の一環としてできるかなと思いました。
- ✓ 障がい児者について、一般の人たちの理解が得られていない
- ✓ 在宅医療
- ✓ 災害時の障がい者体制の整備
- ✓ しばらく置いていた避難準備物が少しずつ解体されていたので、もう一度準備しなおさなければと思いました。障がい児のバックボーンや環境を知る事が必要なことは、自分も経験しているので、今後も出来るだけ情報を知ること努めなければと思いました。
- ✓ 今後の支援対策の方向性の検討
- ✓ 8歳の男の症例について、バックグラウンドを知るという事
- ✓ 障害児者の方々についての知識獲得のための研修会(勉強会)を実施したいと思いました
- ✓ 災害時対応ハンドブックの作成を参考にしていきたい、患者のバックグラウンドを知り、関係機関との情報共有が大切、石巻市の障がい児者歯科診療所設立に向けた動き等
- ✓ ガソリンスタンドの人との協力の話があったが、地域の人との連携は非常に大事だと感じ、周りに障がいのある人がいないかという事ももっと気にしていこうと思った
- ✓ 被災地での取り組みなど、教えていただいたことを学生にも伝えていきたい

4. 障がい児(者)への差別について、どのようなことが原因だと思いますか？

- ✓ 親の考え方、態度が原因と思います
- ✓ 思いやりがない
- ✓ 行動、奇声など
- ✓ 知らないこと、なじみがないこと、“自分と違う”という思い込み
- ✓ 話の中にもありましたが、障がい者と生活することに慣れていない人たちが接し方を知らない事が大きいと思います。未知のものに対する警戒心なのではないかと思えます。
- ✓ 人間は差別するものと思っています。声をあげられる事を。
- ✓ 障がい児者の特性についての理解不足
- ✓ 熊本市や熊本県のリーダーシップが必要だと思いました
- ✓ 障害について、知識がない事が一番の原因ではないでしょうか。発達障害の子供であるという情報等も入っていなければ、反抗的、乱暴として対処してしまう所もあるかと思いました。
- ✓ 理解不足、一般社会に対する啓もう不足
- ✓ 普通の人と違う、とってしまうこと(みんな同じ人間であるのに)
- ✓ 周りがよく知らないことから差別につながるのではと思います
- ✓ 障がい児者に対しての理解が足りない、正しい知識を
- ✓ みんな理解できないから

5. 障がい児(者)への差別をなくすために、どのようなことが必要だと思いますか？

- ✓ 自分と違うものを否定せず、受け容れる教育を根気よく続けること、学校の教師ですら、表面的には差別ないように見せていても、根底では差別があるように感じることがあります
- ✓ 仁
- ✓ 障害児者を家族としてみる社会を作る
- ✓ 障害者も健常者も、自分が基準と思いきむことなく、社会的な事項をどこに基準をおくか考えていくべきだろうと考えます。そのために”障がい””障がい自者”を知るシステムが必要だと思います
- ✓ 軽度から中等度の障がい者の普通学級への受け入れ体制や同一敷地内での特別支援学級をさらに普及させて障がいに対する偏見を脱感作させることが必要だと思いました
- ✓ コミュニティ。昔は普通に障がい児が地域にいた。小さい時から一緒に生活したい。Eテレパリラみたい表に出してほしい。
- ✓ 幼稚園や小学校のころから、我が子は障がい児と一緒に過ごしておりました。運動会や遠足でも、よく介助をする立場となっておりました。直接かかわらないにしろ、小さいころから身近に共同生活をする経験が必要と思われれます。院内でも、診療日に隣の席に座っていただけで吐き気を訴える人や、変な人がいるという人がいらっしゃいます。出来るだけ、情報を増やし、理解してもらえ環境が早くから必要ではないかと思えます(話を聞く前に書きましたが、インクルーシブ教育賛同の意見でした)。もし我が子だったりとか、身内だったりとかの、知識や勉強を増やすべきと思えます。他人事と思わない。
- ✓ インクルーシブ教育が、もっと広がって行けば、小さい頃から受けていれば、差別がないのでは

- ✓ 先生がおっしゃったように、教育の中に障がい児者に対する理解を深めることが大切だと思いました
- ✓ インクルーシブ教育というのはとてもいいと思った
- ✓ 一人一人が障がいがある方に関わる機会があれば積極的に入り周りに伝えていくこと

6. ご自身の地域において、障がいをお持ちの方を受け入れてもらえる歯科医院をご存じですか？ n=15

| | | |
|------|----|-----|
| 知ってる | 13 | 87% |
| 知らない | 2 | 13% |

7. かかりつけの歯科医院をお持ちですか？ n=12

| | | |
|--------|---|-----|
| はい、定期的 | 4 | 33% |
| はい、不定期 | 6 | 50% |
| いいえ | 2 | 17% |

8. 震災後、歯や口について、困ったことや悩みはありましたか？ n=13

| | | |
|--------|---|-----|
| あった | 5 | 38% |
| 特になかった | 8 | 62% |

- ✓ 断水地域や避難生活をされている方が多いため、P 急発がとても目立った印象を受けました。水を使わなくても良いマウスクリーニングの方法を多くは知らなかったため、それぞれの背景に応じた対応ができなかったと思います。
- ✓ 専門職として思うような支援ができなかった
- ✓ 断水したことによって歯磨きの制限があった。口腔ケアを考えると重要な課題だと思った。
- ✓ 断水期間が数週間あったので、水使用の面で困った点がありました

9. 災害後の、障害児(者)に対する歯科の支援は、必要だと思いますか n=16

| | | |
|---------|----|-----|
| はい | 15 | 94% |
| いいえ | 0 | 0% |
| どちらでもない | 1 | 6% |

- ✓ 直接ではないにしても、相談できる場所がある、いざとなったら行くことができると知るだけでも、支えになると思います
- ✓ かかりつけ歯科医をもつ。そこにアセスメント票を作っておいて、情報を慎重に扱いながら共有することが、必要ではないでしょうか。スライド内の”情報アセスメント”はよいアイデアだと思いました。
- ✓ 少なくとも口腔ケアに対する対応ができる体制づくりが必要だと思います。いつも往診している Dr 以外が在宅や施設に行った時に患者にあった対応ができる個人マニュアルがあると良いと思います。

- ✓ 災害時にどうするかマニュアル化が必要
- ✓ やはり、ひとり家に置いておけなかったことで、食糧支援や水に並ぶことも出来なかったとのこと、お話があったように、地域の方達で、情報やサポート体制が必要だと思いました。
- ✓ 状況の把握ができない、災害時におけるネットワークづくり
- ✓ 普通の人のほうが早く避難することで、遅れてきた障がいの方の避難所スペースがない、あるいは、勝手のよくない位置に居なければいけないという話をきいたことがあり、その場合自宅に戻る人もいると思うので、訪問できるような連絡体制などが必要だと思う

10. 歯科に関して望むことはありますか？また、熊本においてあったらいい取り組みなどありますか？ n=13

| | | |
|----|----|------|
| ある | 13 | 100% |
| ない | 0 | 0% |

- ✓ 自分の校医の在宅の障害者さんは、自分で訪問してあげたいと思いますが、お互いに情報不足でうまくいきません。情報開示がむずかしければ、コーディネーターの増員が望まれます
- ✓ 連絡調整を行う立場をどこにおくか、そのためには、どのような関係機関との連携を構築すべきか、考えて行かなくてはならないと思います。
- ✓ ネットワーク、情報交換
- ✓ 地域によって、対応出来る歯科医院等を確認し、情報を発信するべきと思います。地域の中で障がい児の把握も必要と思います。診療受け入れ歯科医の確保。
- ✓ 障害者施設と歯科医師会と連携を深め、お互いの課題を整理する事は重要だと思います。
- ✓ 行政としての予算化に向けた取り組み

●障がい児(者)の方を「多職種で」支援する際に、障壁となることはありますか？ n=8

| | | |
|----|---|-----|
| ある | 6 | 75% |
| ない | 2 | 25% |

- ✓ 情報の共有
- ✓ 各職種のなわばり意識。誰が(どの職種が)コントロールするのか。どこまでを”多職種”とするのか、難しい悩ましいところです。
- ✓ 経験が少ないのでわかりません
- ✓ 障がい児者のレベルやどのような状態かを簡単におしえることができれば
- ✓ ある障がい者施設で、介護者の口腔ケアへの認識が甘く、歯磨きが全くされてない所がありました。ひとりの母親の方の声かけで介入させていただく事が出来、この子に歯磨きは可能なんだとアピールをすることが出来、他の介護者の方達の認識を高めることが出来ました。外部から介入しづらいとの話を聞き、まだまだ十分ではありませんが、家族の声、希望が叶うことを祈ります。
- ✓ 対応の仕方が同じ病院内で一致しないため、場あたりのになっている

●障がい児(者)に対する、歯科の支援において、あなたご自身ができることはありますか
n=9

| | | |
|----|---|------|
| ある | 9 | 100% |
| ない | 0 | 0% |

- ✓ 訪問診療
- ✓ 基本的にこれ以上(現在行っている活動)のことはできません
- ✓ 日本障害者歯科学会認定医。当院でも通常診療として障害児者への歯科診療を行っています。必要に応じて、全身麻酔、静脈内沈静法下での治療も行っています。
- ✓ 職場内での発信を試みたいと思います。
- ✓ 障がい者への対応や歯科治療に対する勉強をもっと積んでいくこと、熊本県内にどのような支援が必要な障がい者がいるのかの情報収集を行うことはできると思います
- ✓ 歯科治療のサポート、口腔ケア、障がい児者施設への訪問診療・口腔ケア
- ✓ できることが何かはわかりませんが、その時にできることを見つけてでも支援したいと思います
- ✓ 口腔ケア、指導、訪問指導
- ✓ 口腔ケアの提供、二次医療機関へつなぐこと、地域の資源を知ること

●組織として、災害時を含め、地域で”障がい児(者)の歯や口”をどのように守っていくべきか

- ✓ 当院の患者様で、否食症の方で地震後のショックでひきこもりになり、部屋から出られずに受診したくてもできない方がいらっしゃいます。そのような方の相談するところ、また、歯科としてどのような対応をしたらよいか相談するところが欲しいです。
- ✓ 学校(小中高)、支援学校との協力、障害者団体、施設との協力、専門職との連携、自治体との連携
- ✓ 支援チームが入ってくるまでの約3日間をどのようにして地元でみていくか、受援体制の整備が不可欠だと考えます。
- ✓ 災害時に、行政との協力は不可欠だと思うので、縦割りにしばられない柔軟な体制をつくってほしいです。また、支援を必要としている障がい者の家族と連携がとれるシステムがあるのであれば、誰もが共有できるようにしていただけると活用できると思います。
- ✓ 地域→町内レベルでの助け合い、情報交換が必要では？
- ✓ 行政関係者が連携して課題や対策を検討・共有していくことが必要だと思います
- ✓ 調整機関(コーディネートの役割)を重視する施策を考えることが重要か(相談支援事業の確立)
- ✓ 熊本ではルーテル大学が自閉症などのサークルがあっってます。(他の大学もあつてるのかもしれませんが)そういうサークルの中に、ボランティアとして入っていくことで、平時から保護者との連携がとれるのでは。いろいろな障害者のサークルに参加する。